



# 中央小ものがたり

令和4年 7月7日  
大村市立中央小学校  
発行 石司 貴弘

やさしく かしく たくましく

## 言葉のもつ 力(ちから)

「言葉は…

人を やさしく包み込む毛布にもなれば、  
心を 深く傷つけるナイフにもなるんだ。」

私たちは言葉によって感情を伝え合います。  
自分の口から出た言葉が、時に人を喜ばせ、時  
に人を傷つけ、悲しませることがないか…あら  
ためて考える機会をつくりました。

6月27日(月)からの『中央っ子の心を見  
つめる教育週間』の始まりにあたり、体育館で全校集会を行いました。

長崎県教育委員会が示す教育週間の趣旨は、「学校・家庭・地域総ぐるみで、**命を大切に**する心や思いやりの心を育てる」というものです。大人も子どもも**命が大事な**ものであるということは“なんとなく”わかっているのでしょうか。しかし、日常生活の中で、具体的にどうすることが命を大切にすることなのか…曖昧さが残ります。そこで、全校集会では次のような柱で子どもたちに語りました。

☆命は大切なもの

自分の命も お友達の命も 全ての命がかけがえのないもの

☆命を大切にすると、どうすること？

みんなが幸せに暮らせるように、一人一人が相手を思いやること

☆「思いやり」って…、どうしたらいいの？

だれでもできることは、ふわふわ言葉をつかうこと。

ふわふわ言葉を広めると、みんなが気持ちよく幸せになる。

お互いの命を大切にすること、みんなが幸せに暮らせる世界をつくることだと思ふのです。そのために、大人も子どもも、誰でもできることは「幸せになるふわふわ言葉」をつかい続けることです。

とはいえ、お互いに不十分な人間です。時に感情がぶつかり合い、ついチクチク言葉で相手の心を傷つけてしまうこともあるでしょう。そんなときには、「ごめんなさい」…これもまた、仲直りをする不思議な力をもつ言葉です。うまくつかえるといいですね。



子どもたちに言うだけでなく、大人が美しくやわらかい言葉をつかえるようになりたいと思ふのです。相手を大切にしていふふわふわ言葉を投げかける…これこそが私たちにできる「命を大切にする」ことだと思ふのです。